

令和元年度 1学期終業式(全日制) 校長式辞

みなさん、おはようございます。

笑顔が素敵な皆さん、私は元気な挨拶とその素敵な笑顔で1学期の間、楽しく学校に来ることができました。また、風紀委員の皆さん、わかりやすいハザードマップを作成してくれてありがとう。玄関と昇降口に掲げてあるので、危ない場所を確認しておいてください。

さて、笑顔には、相手の人や周囲の人を元気にする力があります。また、笑顔が広がると自分自身もとても幸せな気持ちになれます。

昨日、2年生観光コースの生徒が、扶桑北中学校で行ったマナー講座でも、笑顔がいっぱいでした。

福祉科の生徒は、これから介護実習が、2年生は、インターンシップがあります。皆さんの素敵な笑顔で、多くの人を幸せにしてください。

ただ、残念ながら、社会の中にはなかなか笑顔になれない人もいます。「笑っている場合じゃないよ！」と怒る人もいるでしょう。昨日、京都で33人の尊い「いのち」が奪われるという事件も起っています。

病気や事故で大切な人を亡くした人もいます。悲しい、つらい、寂しい思いをしている人が、世の中にはいます。

そこで、今日は、愛知県半田市出身の児童文学作家 新美南吉 さん、「ごんぎつね」「手袋を買いに」という作品が有名ですが、その新美さんの詩「でんでんむしのかなしみ」を紹介します。

【著作権の関係で詩は掲載できません】

誰もが、何かを背中に背負っています。3年生は、これから自分の進路を決定する時期となります。いろいろと悩むこともあるでしょう。

家族、先生、友だちなどに相談してください。しかし最後は、はじめの「でんでんむし」のように、自分で覚悟を決めて進む方向を選択するしかありません。

また、明日から、いくつかの部活動で大会が開催されます。「弱気は最大の敵」これは、バレーボール部のTシャツの言葉ですが、自分自身の力を100%いや120%出せるよう、強い気持ちでぶつかってください。

最後に、最近読んでおもしろかった本を紹介します。それは、「この川のむこうに君がいる」という、今年の読書感想文コンクール課題図書の一冊です。

物語は、東日本大震災で兄を亡くした主人公が、埼玉県に移住、東京の高校に入学するところから始まります。福島県から移住してきたこと、兄を亡くしたことを隠したい、同情されたくない、という思いを抱きながら送る高校生活、それが、吹奏楽部の先輩の演奏に惹かれ、夢中に楽器を練習するうちに、少しずつありのままの気持ちを伝えることができるようになる。そんな主人公の心情の変化、人間模様を描いた作品です。

「この川のむこうに君がいる」是非読んでみてください。

それでは、1学期・始業式で提案した合言葉、「GO GO FORWARD!」「行け 行け 前へ!」のとおり、前向きな夏休みを過ごすことを期待して、1学期・終業式の式辞とします。